

南区 南吉田小学校

対象国 セネガル

- ・ 活動時期 7月 ～ 11月
- ・ 実施単位 (学年・クラス) 6年生 (3クラス)

(実施状況報告)

「一校一国運動」の学習を人権教育の一端に取り入れることにし、3本の柱で人権教育学習を行なう計画をたてた。セネガルを知ることから世界に目を向け、自分の生活を見つめることができる流れである。「一校一国運動」の話は人権教育学習のスタートで、「異文化交流・異文化理解」を目的にした1本目の柱になる。

セネガルの高校生が来校する前に、6年生にはJ O C Aからお借りしたセネガルのワールドボックスと世界地図でセネガルの位置や歴史などを紹介する時間をもった。6年生3クラスに反応の違いはあるものの、児童はセネガルからのお客さんを心待ちにするようになった。セネガルから高校生が来ることは全校にも知らせ、J O C Aのワールドボックスのグッズを職員室前に展示し、セネガルを知るための啓発活動を行った。

セネガルの高校生が来校した日は、6年生全員がパワーポイントによるセネガルの紹介や学校生活、趣味などの話しを英語で聞いた。外国籍で英語が分かる児童は日々の日本語での学習よりも言葉が分かるので熱心に聞いていた。他の児童もセネガルの民族衣装の正装で話をしてくれたこともあり、興味を持って話を聞くことができた。



英語で歓迎の挨拶をする

また、手作りのドラムをプレゼントしていただけたことも児童に



プレゼントされたドラムを前にお礼の挨拶をする

とってはうれしい経験になった。ドラムの実演があり、代表児童はドラムの演奏指導で交流をした。児童の歌に合わせた演奏も思い出の一つになった。限られた時間の中ではあったが、6年生の音楽祭の合唱練習を参観し、交流する時間を設けた。

2本目の柱は「命の大切さ」を考えることを目的にセネガルのことを聞く機会を持った。日本人の視点でセネガルを知るためにJ O C A派遣の助産師さんに「命の大切さ」についての講演をお願いした。児童には「命」をテーマに話を聞くことを事前に指導しておいた。セネガルの高校生の話とは違い、生と死が混在する生活に驚いていた。児童の感想には、今の自分の生活と比較したり、自分にできることを考えたりするものが多くみられた。

人権教育学習の最後、3本目の柱は「人権移動教室」であった。「世界のボランティア活動の現状」と「人権について知ること」を目的にした。ビデオを使い国境なき医師団の活動を中心に世界のボランティア活動の実態を紹介して下さり、『人権』を「死にたくない(=生きること)」「幸せになりたい」の2つのことであると、分かりやすい平易な言葉で説明して下さった。自分の身近な経験を具体例にしてくださったことで、児童には理解しやすい人権学習になった。

「一校一国運動」が異文化理解(国際理解教育)のよい機会になり、児童に『人権』についての理解を深める学習にもつなげることができた。

(参加児童の感想)・ ○一校一国の感想 ◇助産師さんの講演の感想 ☆人権移動教室の感想

○セネガルの楽器(ドラム)と私たちの歌と合奏をして、とても思い出になりました。セネガルのいろいろなことを聞いて、いろいろなことを知り、とても楽しかったです。

○セネガルでは夜出かけない習慣があり、びっくりしました。理由はお化けが出るそうです。

○セネガルには独立記念日があった。日本にはなくて驚いたと話してくれた。お父さんと一緒に作ったという太鼓はとてもいい音がした。ふつうにたたくといい音が出なかったの、不思議だった。

◇私にとっての幸せは欲しいものは何でも買ってもらえることでした。でも、幸せって命があって生きることが本当の幸せじゃないかなと思いました。

◇新しい命が生まれてくるのを支える仕事をしている人がいることはすごいと思った。

◇日本では自殺があるけれど、不自由な暮らしをしているはずのセネガルでは自殺がなく、みんな笑顔で幸せに暮らしていた。命を大切にしなければいけないと思った。

☆「死にたくないこと」と「幸せになりたいこと」が人権だとわかった。

☆自分が幸せになるために、人の幸せを大切にしなければいけないことが分かった。

☆ご自分のアメリカでの体験を話してくれて、わかりやすかった。

☆国境なき医師団は自分が死んでしまうかもしれないところに行くなんてすごいと思った。